

アビリンピック(障害者技能競技大会)の概要

アビリンピックは、障害のある方が技能労働者として、その職業能力の向上を図るとともに、広く障害のある方の雇用に対する社会の理解と認識を高め、その雇用の促進を図ることを目的として開催され、障害のある方(15歳以上)が職業技能を競う大会です。

＜職業技能競技種目＞

喫茶サービス、ビルクリーニング、ワード・プロセッサ、オフィスアシスタント、製品パッキング、表計算、DTP、ホームページ、データベース、機械CAD、電子機器組立、フラワーアレンジメント、歯科技工、洋裁、建築CAD 等

全国アビリンピック

全国アビリンピックは、1972年(昭和47年)から国際アビリンピック開催年を除いて毎年開催され、各都道府県の代表選手が出場し技能を競う。

■主催：開催都道府県

(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構

■近年の開催実績：

| | | | |
|---------------|-------------|------|------|
| 第31回大会(平成21年) | 茨城県 | 21種目 | 267人 |
| 第32回大会(平成22年) | 神奈川県 | 22種目 | 267人 |
| 第33回大会(平成24年) | 長野県 | 23種目 | 302人 |
| 第34回大会(平成25年) | 機構単独主催(千葉県) | 24種目 | 318人 |
| 第35回大会(平成26年) | 愛知県 | 24種目 | 332人 |

全国アビリンピック成績優秀者を
国際大会に派遣

国際アビリンピック

国際アビリンピックは、1981年(昭和56年)国連が定めた国際障害者年を記念して、同年、第1回大会を東京で開催。国際親善を図ることも目的としており、おおむね4年に1度開催。

■主催：開催国の障害者団体

■近年の開催実績：

| | 参加国・地域 | 参加日本選手 | |
|--------------|------------|--------|-----|
| 第5回大会(平成12年) | チェコ・プラハ | 29 | 36人 |
| 第6回大会(平成15年) | インド・ニューデリー | 33 | 25人 |
| 第7回大会(平成19年) | 日本・静岡 | 34 | 93人 |

＜第8回 国際アビリンピック(ソウル大会)の概要＞

■日程：平成23年9月25日～30日

■参加者数：52カ国・地域 1,533人(うち職業技能競技選手 36カ国・地域 延451人)
日本選手団 97名(うち職業技能競技選手16種目 31人)

■職業技能競技：33種目

■結果：金賞 韓国15個、台湾5個、中国3個、日本2個
日本選手 金賞2個(義肢製作、データベース(基礎))、銀賞4個、銅賞7個

※写真は全て第8回国際アビリンピック大会の様子

■第9回大会は、平成28年3月にフランス・ボルドーで開催予定



強化指導

大会出場に向け、障害者職業能力開発校において指導員による派遣選手の強化指導

英文DTP

チラシやパンフレット等の印刷物を与えられた素材で製作する競技



電子機器組立・テスト

与えられた材料で、「液面計」を組立て、正確に動作するかを競う競技



義肢製作

体と義足をつなぐ部分の「ソケット」を製作する競技



表彰式

データベース(基礎)競技で金賞・銀賞を受賞し表彰される日本選手



国際親善

他国の選手と手話を通じて交流を図る日本選手